

留 学 報 告 書

記入日:2020年12月16日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部文学科英米文学専攻
留学先国	オーストラリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マッコーリー大学 現地言語: 英語
留学期間	2020年2月～2020年11月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年11月29日
明治大学卒業予定年	2022年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:2月下旬～6月下旬 2学期:7月下旬～11月下旬 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	40,000名
創立年	1964年

留学費用項目	現地通貨 (AUD)	円	備考
授業料	0	0円	交換留学のため
宿舍費	18,780.32	1,352,183.04円	
食費	0	0円	宿泊費に含まれる
図書費	0	0円	
学用品費	200	14,400円	
携帯・インターネット費	416.66	30,000円	日本の携帯電話会社との契約
現地交通費	300	21,600円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	200	14,400円	
被服費	300	21,600円	
医療費	100	7,200円	
保険費	2,021.44	145,544円	形態:海外旅行保険、OSHC
渡航旅費	2,083.33	150,000円	
ビザ申請費	620	44,640円	
雑費	500	36,000円	
その他	0	0円	
その他	0	0円	
合計	25,521.75	1,837,567円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:新千歳空港	目的地:シドニー国際空港 経由地:関西国際空港
復路 出発地:シドニー国際空港	目的地:羽田国際空港 経由地:
渡航費用	
①往復チケットを購入した場合 航空会社: _____ 料金: _____	
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:カンタス航空 料金:75,000 円 復路 航空会社:JAL 料金:75,000 円 ∴合計:150,000 円	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: _____) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:それぞれの公式サイト) <input type="checkbox"/> その他(_____)	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:ダンモアラングカレッジ) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 _____)	
3)共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
大学のホームページ	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
食事付きのプランもあり、寮内で友達を作るのも難くないので、慣れない土地での生活に不安な人には最適な寮だと思います。ただ、古い棟ではほぼ虫との共同生活なので、苦手な人は多少高いですが新しい棟に住むことをお勧めします。	
現地情報	
1)留学期間中、病気やケガをされましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)	
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所: _____ 病院に行くほどではなく、薬局で薬を処方してもらいました。 _____)	
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。	
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: _____)	
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?	
特に危険な経験はしませんでした。ただ、デモ活動等は数回あったようなので、そのような日はシティへの外出は控えめました。YouTubeのABC News(Australia)というチャンネルのライブを毎日見て情報は収集していました。	
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。	
寮と大学のインターネットは、時々不具合が起こることもありましたが基本的に十分な速度でした。町のフリーWi-Fiは日本と同じくらいなのであまり期待しないほうがいいです。	
5)現地での資金調達はどうに行いましたか?	
日本を発つ前に、空港である程度オーストラドルを入手しました。その後は必要に応じてキャッシュパスポートを使って現地のATMで現金を引き出していました。	
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。	
こだわらなければ大体は揃います。ただ、日本製の物はほぼ全て高いので、持っていけるものは持っていったほうがいいのかもしれませんが。	
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)	
日本から持って行ったクレジットカードで決済していました。日本よりもキャッシュレスが進んでいるので、クレジットカードは必須だと思います。	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
70 Cr Pts 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？ 交換留学生はとることができない授業もありました。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Principles of Economics 1	経済原論 1
科目設置学部・研究科	Department of Economics
履修期間	1 学期
単位数	10 Cr Pts
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 2 回
担当教授	David Orsmond
授業内容	この授業では経済学の基礎を学びました。数学の応用というよりも、大きな経済の枠組みの部分にフォーカスしていた印象です。チュートリアルでは、レクチャーで学んだ概念的な部分を実生活と結びつけてグループでディスカッションしました。オンライン移行後は、ディスカッションフォーラムに週ごとのトピックへの意見を投稿することで出席点とされていました。
試験・課題など	エッセイ、オンラインクイズ、最終試験
感想を自由記入	私にとって初めての経済系の授業でしたが、しっかり基礎的な部分もカバーしつつ、実生活と関連付けて進めてくれるため、スムーズに理解することができました。ディスカッションの機会が多く設けられていたのも非常にいい経験になりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Principles of Economics 2	経済原論 2
科目設置学部・研究科	Department of Economics
履修期間	2 学期
単位数	10 Cr Pts
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 2 回
担当教授	David Orsmond
授業内容	この授業は Principles of Economics 1 の続きのユニットです。週ごとの経済に関するトピックについて、レクチャーで学んだことをもとにグループでディスカッションを行いました。ディスカッションフォーラムへの毎週投稿も必須でした。
試験・課題など	エッセイ、オンラインクイズ、最終試験
感想を自由記入	Principles of Economics 1 と比較すると、難易度は少し高いですが、授業の進み方などは同じでした。Principles of Economics 1 を 1 学期で履修した場合、この授業を継続して 2 学期で履修することをお勧めします。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Quantitative Methods in Economics, Business and Finance	経済、ビジネス、金融での定量法
科目設置学部・研究科	Department of Economics
履修期間	2 学期
単位数	10 Cr Pts
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 2 回
担当教授	Suzanne Bonner
授業内容	数学を用いて、経済、ビジネス、金融の問題を分析する授業です。2週間ごとにオンラインクイズがあったので、定期的に復習をしなければいけないのが難しかったです。ディスカッションはなく、基本的に問題を解いていただけでした。
試験・課題など	プロブレムセット、オンラインクイズ、最終試験
感想を自由記入	一見、少し威圧的な科目名に見えますが、高校数学をしっかり理解していればさほど難しい授業ではありません。ディスカッションはあまりないため、クラス内で交流するような授業を探している人にはお勧めできないかもしれません。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Accounting in Society	会計学
科目設置学部・研究科	Department of Accounting & Corporate Governance
履修期間	2 学期
単位数	10 Cr Pts
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 2 回
担当教授	Joane Jonathan
授業内容	会計の基礎を学ぶ授業です。基本的な語句、コンセプト、メソッドをレクチャーで学び、予習した問題をチュートリアル内で解説するという授業の流れでした。
試験・課題など	インタラクティブアサインメント、エッセイ、オンラインクイズ、最終試験
感想を自由記入	ディスカッションを行うというよりは、問題を解いていながら会計学の基礎を理解するという授業でした。インタラクティブアサインメントとは、毎週エクセルにその日習ったことを記録していく課題なのですが、先生のサポートが厚く、いい学びができると思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Consumer Behaviour	消費者行動
科目設置学部・研究科	Department of Marketing
履修期間	2 学期
単位数	10 Cr Pts
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 2 回
担当教授	Jana Bowden
授業内容	消費者の心理、行動を分析し理解することで、マーケティングの大切な要素を学ぶ授業です。レクチャーで学んだ知識を使って、チュートリアル内で毎回グループディスカッションをしたり、教授と意見交換をしたりしました。
試験・課題など	エッセイ
感想を自由記入	自分自身も一消費者として、学ぶことや気づくことが多くあった授業でした。私が履修した授業の中で、ディスカッションや自分の意見を発表する機会が一番多くありました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Marketing Fundamentals	マーケティング基礎
科目設置学部・研究科	Department of Marketing
履修期間	1 学期
単位数	10 Cr Pts
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ワークショップ、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 1 回
担当教授	Michael Volkov
授業内容	レクチャーで学んだマーケティングの概念を、2 時間のワークショップでグループワークを行い、実生活への効果的かつ持続可能な応用を考える授業です。オンライン移行後は、オンラインディスカッションフォーラムへの意見投稿で出席点とされていました。
試験・課題など	エッセイ、最終試験
感想を自由記入	他の授業とは少し違い、2 時間のグループワークがあったので、予習復習をしなければディスカッションについていくことは厳しかったです。やりがいのある授業だと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
A Big History of the Universe to the Present	宇宙の現在までの歴史
科目設置学部・研究科	Department of Modern History, Politics & International Relations
履修期間	1 学期
単位数	10 Cr Pts
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	セミナー、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 1 回
担当教授	David Baker
授業内容	宇宙と地球の歴史を学ぶ授業です。2 時間のグループワークでみんなで意見を出し合いながら週ごとのクイズを解いていくという流れでした。
試験・課題など	オンラインクイズ、エッセイ
感想を自由記入	ビジネスとはかけ離れた分野ですが、ディスカッションする機会の多い授業を探していたところ、この授業に行き着きました。普段触れないような語彙に多く出会えたことも収穫でした。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
特にありません。ポスキヤリがオンラインで行われていたので、留学中に見たりはしていました。
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
商社、金融を希望しています。
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
留学に行く前は、英語力を生かし、とりあえず”良い企業”への就職を希望していました。しかし、今留学を終えて思うことは、自分の英語力やビジネス力をさらに伸ばすことのできる成長環境に身をおきたいということです。それが世間一般から見た”良い企業”かどうかは、それほど大事な判断基準ではなくなりました。
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2018年 1月～3月	大学受験
4月～7月	明治大学入学
8月～9月	本格的に長期留学を考え始める
10月～12月	TOEFL IBT の勉強
2019年 1月～3月	TOEFL IBT を受験
4月～7月	候補大学を絞り出願
8月～9月	面接選考
10月～12月	オンラインで留学先大学の事前履修登録、寮の申し込み、航空券手配
2020年 1月～3月	引越し、明治大学期末試験、渡豪
4月～7月	授業、中休み、試験、冬休み
8月～9月	授業、中休み
10月～12月	授業、試験、夏休み

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

私は、英語圏であれば行く国にこだわりはなかったのですが、春出発で一番早く行くことのできるオーストラリアを希望しました。また、私が出願を考え始めたときは、オーストラリアの大学は TOEFL や IELTS の条件スコアが他と比べて高く、倍率が低い傾向にあったので、ほぼ確実に行けると思ったことも一つの大きな理由です。マッコーリー大学を選んだ理由は、ビジネス関連の授業が充実しており、立地もよく、学びやすい環境だったからです。私の留学全体を振り返ってみると、やはり世界的に流行した感染症の影響で思い通りにいかないことは多くありました。しかし、留学が今の自分にとって一番一生懸命になれることだったので、できるだけ状況をポジティブに捉え、私は留学を継続することにこだわりました。実際、それだけの大きな価値があったと思っています。留学を志すみなさんには、是非、今の自分の情熱に素直に従ってほしいと思います。